

株主・投資家とのコミュニケーション

大阪ガスは、Daigasグループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に向けて、株主・投資家との建設的な対話が重要であると認識し、対話を促進するための施策や体制強化を図っています。

IR活動を通じて、経営状況や財務状況、持続的な成長に向けた取り組みについて、適時かつ公平な発信と分かりやすいご説明に努めます。また、積極的に対話の機会を拡大し、頂いたご意見や資本市場のニーズを適切に経営戦略に反映することで、株主・投資家とのより長期的な信頼関係構築を進めています。

対話の実施状況

株主・機関投資家に向けて、四半期毎の決算説明会を実施しています。WEB会議を通じた配信や、ホームページでの質疑内容の開示(日本語・英語)等、継続的に情報開示の改善を実施しています。

また、機関投資家と経営幹部とのスモールミーティング、サステナビリティ情報や事業活動など資本市場から関心の高いテーマに特化した説明会、機関投資家との個別のIRミーティングなどを適宜実施しています。2024年度の事業説明会では、「カーボンニュートラル」をテーマに、(株)INPEXと共同で、長岡e-メタン実証実験施設等 合同見学会を実施し、新潟県のサイトを見学し、担当部門からの詳細説明を行いました。

これらの活動を通じて、経営幹部が株主・投資家と直接対話を行うとともに、IR担当部署が日頃の活動を通じて得られた株主・投資家からのご意見や経営課題のご指摘については、定期的に、取締役会および経営幹部、また幅広く社内に報告し、適切に経営に反映するように努めています。

主な対話のテーマ

- 中長期の事業戦略(中期経営計画2026の進捗、脱炭素社会への対応等)
- 財務戦略(資本構成の考え方、株主還元方針等)
- 直近の業績(各セグメントの状況等)
- サステナビリティの取り組み(CO₂排出量、再生可能エネルギー普及貢献量、人的資本戦略、ガバナンスの取り組み等)

IR活動の体制

(i) 統括責任者

株主・投資家との対話は、代表取締役副社長(経営企画本部長)が統括します。

(ii) 推進体制

代表取締役副社長(経営企画本部長)の統括のもと、企画部のIR担当組織が責任部署として、推進しています。対話のテーマに応じて、財務部、広報部、総務部等のコーポレート部門や各事業部などの関連組織とも、有機的に連携して対応していきます。

2024年度活動実績一覧

代表取締役社長	株主総会、経営計画説明会、決算説明会、海外機関投資家との対話(5回)
代表取締役副社長(経営企画本部長)	株主総会、国内機関投資家とのスモールミーティング、海外機関投資家との対話(11回)
社外取締役	国内機関投資家とのスモールミーティング 詳細は□□P.59をご覧ください
IR担当部署	経営計画説明会、決算説明会、事業見学会、個人投資家向け説明会、投資家との対話約190回(セルサイドアナリストとの対話(約20回)、国内機関投資家との対話(約80回)、海外機関投資家との対話(約90回)等)
SR担当部署	国内株主との対話(13回)

株主・投資家からの主なご意見と対応

対話のなかで頂いたご意見	対応
事業環境が大きく変動し、短期的な利益の増減が生じる状況においても、配当の予見性を高めてほしい。	中期経営計画2026において、短期的な利益変動の影響を受けにくい株主資本を基準とする「株主資本配当率(DOE)」を導入するとともに、「累進配当」の方針を公表。
中期経営計画2026の目標達成への信頼性向上のために、さらなる情報開示の強化を図ってほしい。	● ROIC見通しについて、セグメントごとの内訳を開示 ● 海外エネルギーセグメントの開示を改善(内訳の記載をエリア単位に変更、海外上流事業の生産量実績の開示) ● 為替の変動による自己資本への影響額(為替換算調整勘定)の解説を開示 等
ガバナンス強化のため、投資家と社外取締役との対話の場を設けてほしい。	● 社外取締役による機関投資家とのスモールミーティングを開催し、その内容を統合報告書で開示(24年度より開催、25年度は統合報告書での開示を拡充) 詳細は□□P.59をご覧ください